

## 巻頭言



熊本県立天草高等学校  
校長 平田 浩一

本校は平成29年4月からSSHの指定を受け、「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「地域の豊かな自然環境の中で多様な能力を身に付け、世界に飛躍する科学技術人材の育成を目指す」のテーマのもと、研究開発に取り組んできました。

昨年度までの3年間を終え、全学年における探究活動の実践、学校設定科目の開発、国内外での大学・企業研修プログラムの構築、評価法の開発など、SSH校として学校全体での研究体制を創り上げることができました。また、中間評価においては一定の評価をいただいたものの①探究活動における生徒の自発的・主体的なテーマ設定、②ASクラス選択者の増加、③教員の指導力向上のための組織的な取組、の3点についてより一層取り組むよう指導をいただきました。

このようなことから、4年目を迎える今年度の主目標として「探究活動の更なる充実」を掲げ、課題探究ルーブリックの改訂、指導と評価の一体化、天高版探究型授業の構築、各教科の授業における探究力の向上に取り組んできました。授業づくりに関する職員研修を通して生徒の探究力の向上を図るとともに、探究活動の成果を生かした大学への進学にも取り組んできたところです。

しかしながら、本年度、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、例年開催していた国内外での大学・企業研修や地域の小中学生を対象としたサイエンスアカデミーなどができない状況でした。また、研究成果発表会もこれまでのやり方からの変更を余儀なくされました。活動を楽しみにしていた生徒には、非常に残念な思いをさせてしまったと考えています。

このような中であっても、何かできることはないかと常に模索してきました。オンラインを活用した外部講師による研修会の開催や研究発表会の開催により、地域参加者の新たな広がりや他のSSH校との連携が生まれるなど、ICTを活用した研究と成果の普及に新たな可能性を感じることができました。

また、脱炭素社会の実現に向けたアイデアコンテストにおいて最優秀賞に輝くなど、持続可能な社会の創り手となる資質能力の育成を図ることができたと考えております。

来年度は研究指定の最終年度を迎えます。4年間の取り組みの成果と課題を明らかにし、本研究開発の総まとめに取り組みたいです。より一層研究を深めていきたいと考えておりますので、本実施報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと思います。存じます。

最後になりましたが、研究開発の推進あたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員会及び熊本県教育委員会をはじめ、多くの関係機関の皆様方の御指導・御支援に対し心より感謝申し上げます、発刊のあいさつといたします。